

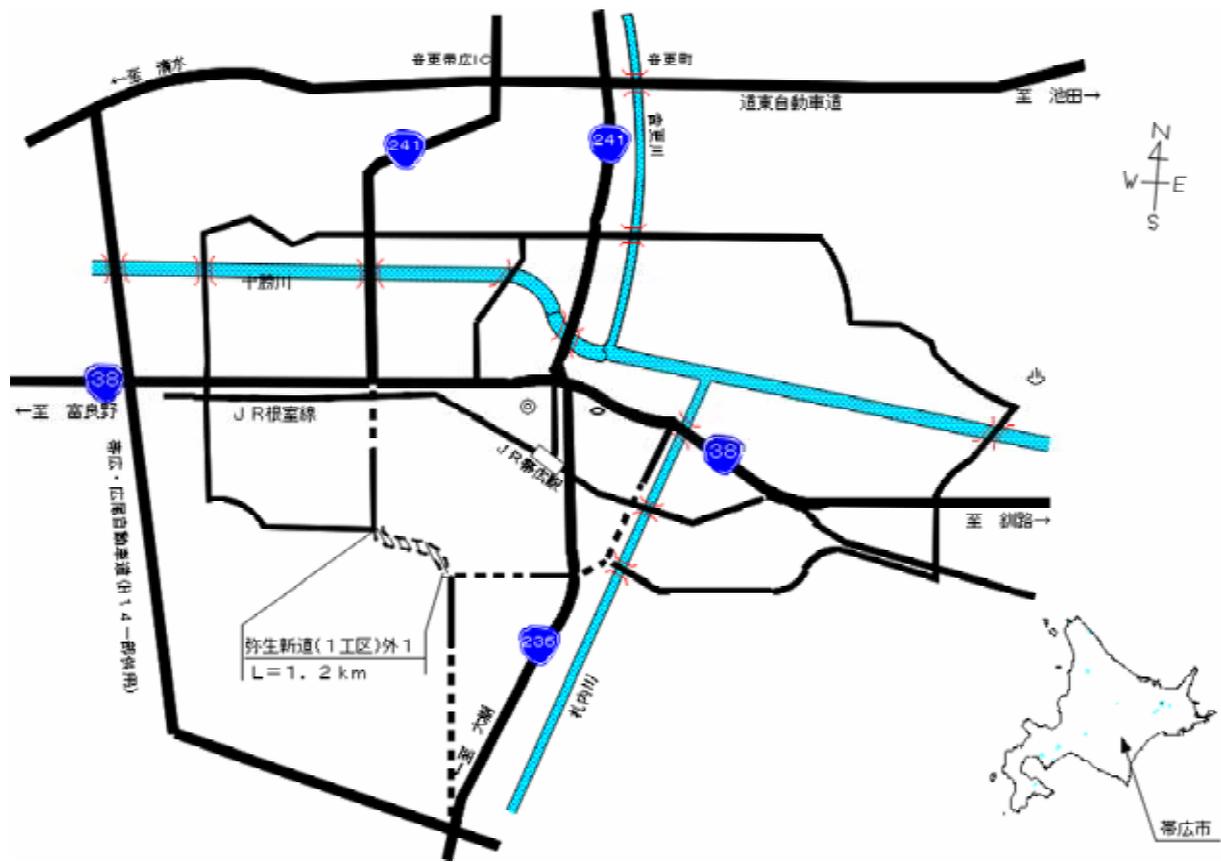
## 再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：北海道開発局都市住宅課  
担当課長名：小田島 聖

事業名	都市計画道路3.3.46弥生新道(1工区)外1		事業区分	街路	事業主体	北海道
起終点	自：北海道帯広市西1.7条南5丁目 至：北海道帯広市南町南7線				延長	1.2km
事業概要	弥生新道は、帯広都市圏における1環状4放射道路の環状道路の一部を構成する主要幹線道路である本路線の整備により環状機能が発現し、市内中心部の通過交通の分散による交通円滑化が図られる。また、快適な歩行空間の形成により、周辺市街地の利便性向上と交通安全を確保する。					
H4年度事業化	S58年度都市計画決定 (H12年度変更)	H5年度用地着手	H13年度工事着手			
全体事業費	約5.8億円	事業進捗率	95%	供用済延長	0.0km	
計画交通量	27,100台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 4.0 / 61億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 248 / 248億円		基準年 平成19年
	(残事業) 4.1 62.0	事業費：2.7/60億円 維持管理費：1.3/1.3億円		走行時間短縮便益：176/176億円 走行費用減少便益：57/57億円 交通事故減少便益：15/15億円		
感度分析の結果	事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C=4.2(交通量+10%) B/C=4.0(交通量-10%) 事業費変動：B/C=3.8(事業費+10%) B/C=4.1(事業費-10%)					
事業の効果等	・都市の再生(広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する) ・安全で安心できるくらしの確保(三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる) ・災害への備え(緊急輸送道路ネットワーク計画に位置づけがある)					
関係する地方公共団体等の意見	沿道地区の町内会等から事業早期完成に向けての要望が出されている。帯広市第5期総合計画の中で「圏域内道路交通網の整備促進」として弥生新道の事業促進が要望されている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	本路線に接続する弥生通、弥生新道(南町工区)等が完成していることから、ますます本事業完成の必要性が増している状況である。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	工事の進捗状況は約9割。用地補償に伴う手続きに時間を要しているが、事業期間内には手続きが完了する予定。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	用地補償に伴う手続きに時間を要しているが、事業期間内には手続きが完了する予定であり、計画年次での事業達成は可能である。					
施設の構造や工法の変更等	鋼橋上部に耐候性鋼材を使用したり、再生骨材や再生アスファルト合材の活用による資源循環の促進によりコスト縮減を図っている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図	(図表領域)					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

# 事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。